昭和63年
7月3日
第1114号

市報
にいがた

発行日 毎週日曜日　発行所 新潟市役所 〒951 西堀通6-866　編集 企画部広報課　印刷 ㈱第一印刷所

市の人口（5月末現在）
人口 472,231人
男 229,354人
女 242,877人
世帯数 157,211世帯

新潟 ↔ 東南アジア

新潟港の活性化へ 定期貨物航路が開設

新潟東港と東南アジアを結ぶ定期貨物航路が今月から開設されることになりました。これは、市・県・新潟商工会議所・関係業界などで新潟港の活性化を図ろうと昭和六十年度から開設の運動を進めてきたもので、同航路の開設は日本海側ではじめて。新航路は、新潟―基隆（台湾）―高雄（同）―香港―釜山（韓国）―苫小牧―新潟を結び、二隻のコンテナ船が当面十五日間隔で月二便就航します。

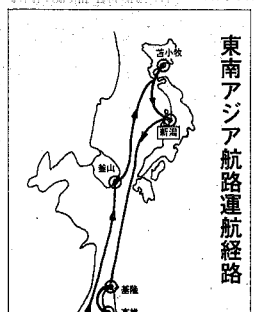
東南アジアを結ぶ定期貨物船が入る新潟東港

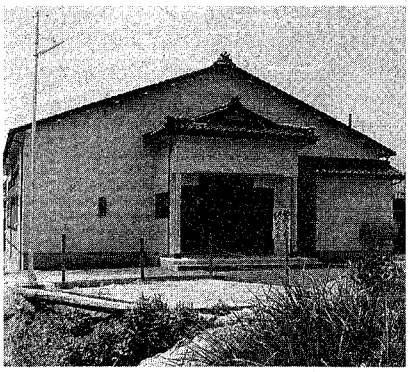
同航路を運航するのは、シンガポールにあるオリエント・ナビゲイション・ラインズ社。新潟港での代理店は、新潟臨港海陸運送がつとめ、集荷は、新潟臨港海陸運送、日本通運、富士運輸の三社共同であたります。就航する船は、フルコンテナ船ラトーゼ号（四千二百四十八㌧、コンテナ積載数三百五十八個）とパール・リファー号（三千四百九十八㌧・コンテナ積載数二百十八個）の2隻で、当面は十五日間隔で月二便就航し、貨物量の推移をみながら週一便にまで増やす計画もあります。

東南アジアとの取引も少なくない本県にとってはもちろん、北陸や北関東の企業にも新航路をPRして、これまで横浜、神戸といった太平洋側に流れていた貨物を新潟に集荷できると関係者はみています。

ポートセールス、高速道路網の整備、景気の回復、アジアの新興工業経済地域（NIES）の台頭など、新潟港、新航路を取り巻く情勢からみて、この新航路の開設は、新潟港の活性化、企業誘致、そして新潟―釜山単独航路、新潟―ウラジオストク航路の開設に向けて大きなステップとなりました。

東南アジア航路運航経路





島見町自治会館が完成

先月十七日に島見町自治会館が完成＝写真＝、若杉市長ら関係者が出席して完成を祝いました。

同自治会館は総工費二千七百万円をかけた木造平屋建て、延べ床面積二百七十二平方㍍で、ステージ付の七十畳の大広間、十畳の和室二室、調理場、納戸を備えた大規模なもの。式典ではできあがったばかりのステージで、地元の民謡会の人たちが踊りを披露し盛んな拍手を浴びていました。

この自治会館、集会に、催しの場に、と地元住民の交流に大いに期待されています。なお市では、自治会、町内会で建設または購入する集会所に対し、補助制度があります。詳しくは生活課へ。

どうぞご覧下さい 「広報テレビ番組」

7月3日（日） **さわやか新潟**（BSN午前8時15分～）「石造遺物の調査してみませんか」 **新潟市政ニュース**（NST午前8時5分～）「ミスにいがた3人が決定」 **にいがた子どもの広場**（NT21午前10時55分～）「南浜小学校・プール授業、いま真っ盛り」

7月9日（土） **すこやか新潟**（TNN午前9時55分～）「夏季食品の取り扱い」

7月10日（日） **新潟市政ニュース**（NST午前8時5分～）「市制100周年記念事業―市民企画委員会が企画案まとめる」 **にいがた子どもの広場**（NT21午前10時55分～）「坂井東小学校・楽しい七夕祭り」

英語・ロシア語・中国語版 新潟市紹介ビデオの利用好調
申し込みは広報課へ

海外に新潟市の姿を紹介する英語、ロシア語、中国語、三カ国語版ビデオ「NIIGATA」の利用が貸し出し後一カ月半で六十一件と好調です。

このビデオは市内各地をカメラに収め編集、新潟市の姉妹・友好都市の三カ国語でそれぞれ吹き込みを行ったものです。

広報課では市民のみなさんから広く利用してもらうため最長七日間を限度に貸し出すとともに、テープのダビングも行うことにし、五月から利用を呼びかけました。その結果、六月半ばでテープの貸出件数は三十七件、ダビング件数は二十三件と多くの利用申し込みがありました。

利用方法をみると、多い順に①語学学習のため…四〇％②留学生のため…四％②外国人来訪者のため…四％④新潟市を知るため…二％、などと続いています。変わったところでは、「日本人学校へ送るため」「中国引揚者の事業に使用」「市で開催される学会への参加者に新潟市を紹介」とあり、さまざまな方面で利用されています。

広報課では好評にこたえ引き続きテープの貸し出し、ダビングを行っています。どうぞ、ご利用下さい。

申し込み 広報課（本庁舎三階、☎内線235番）へ

市公会堂 改修工事で 7・8月は休館

市公会堂では、ホールの一部改修工事のため、八月三十一日までホールの利用はできません。なお、中集会室は従来どおり利用できます。

工事期間中は、駐車場が一部狭くなるなど、ご不便をおかけしますがご了承下さい。

問い合わせ 音楽文化会館（☎224―5811）へ

私の思い出 僕の夢 ③
新潟市制100周年 昭和64年

「河を走った客船」

平井 仁八さん

「安進丸」という客船があった。いわゆる水上バスのはしりだ。水車が船体中央両側に取り付けられ、それが回転して水をかいて進むという。ミシシッピ川の名物ショーボートの小型である。

大正年代、木橋のころの万代橋西側のたもとにターミナルがあり、白根・大野―新潟と、葛塚（今の豊栄）を終点に、通船川を山之下―新川―松ケ崎（今の松浜）から新井郷川に入り、名目所・濁川・兄弟堀―葛塚というコース。

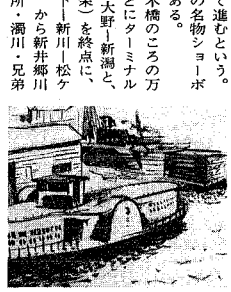
白新線などもろろん、バスもない時代の、蒲原平野における庶民の足であった。貨物もかなり運んだので、物流の足ともなった。

機関部の前後に畳敷きの客室があり、上等席は一段と高い部屋。眺めもよかった。寝そべって、ゆったり水上の旅が楽しめた。速度は自転車くらい。で、かなりの時間は要したが、それでも歩くのにくらべれば、うんと速い。しかも寝そべってだ。

この船バスは、万代橋がコンクリートになるころ姿を消した。陸バスに敗北したのである。時代の潮流に没したのだ。

"水都"を自認する新潟にそれを物語る名物があるかというと、それはあまりない。だからこそ、信濃・阿賀二大巨川をかかえる新潟に、水上バスとして、観光の目玉として安進丸の再生を願うのは、郷愁の夢だろうか。

（三軒屋町在住・七十八歳＝投稿）



講演 日ソ合弁事業 **「イギルマ大陸」設立経過と現状**

日時 七月八日午後一時半～二時半
会場 県庁西回廊講堂
講師 岩田重剛・大陸貿易㈱代表取締役
申し込み 電話で商業観光課（☎内線331番）へ

父と子の日曜日
「動く市政教室」参加者募集

日時 7月24日午前9時10分市役所本庁舎中庭集合
コース 巡視船体験航海～園芸センター（昼食）～東消防署
対象 父親と小学生40組（母子世帯は母親も可）、応募多数の場合抽選
持参品 昼食、筆記用具
申し込み 7月9日（必着）までに往復はがきに住所、電話番号、親子の氏名、年齢、職業、小学校名、学年を明記し、市民相談室「動く市政教室」係（〒951 西堀通6―866）へ。返信用はがきの表はあて名、住所を記入し、裏には何も書かないで下さい。
※申し込みは1世帯1枚とします。

電話案内

市役所・教育委員会	228―1000
体育課	229―6633
野球場・テニスコートの申し込み	266―8111
火災の場所を知りたいとき	224―1111
市民病院	241―5151
園芸センター	286―1034
東保健所	243―5311
石山地区保健センター	286―4450
鳥屋野地区保健センター	285―2373
北地区保健センター	259―7332
西保健所	266―5171
西地区保健センター	262―3405
坂井輪地区保健センター	260―3255
市医師会休日急患診療センター	231―4135
県歯科医師会休日歯科診療センター	283―3030
水道局	266―9311